

2.28何でも街頭相談

代田医師・入江医師・赤羽看護師が
渋谷駅前健康相談を担当する

病気があり日雇い労働だった・お金もほとんどない：37歳男性

2/28に渋谷駅前では社保協と国民運動実行委員会による「雇用・命・暮らしを守る」街頭相談会が行われました。寄せられた相談件数は35件と昨年末に行った相談会での件数（17）の倍です。相談者からは「派遣会社から働き続けられると言われていたのに12月に解雇された」「パートタイムで働いていたが、12月で雇い止め。解雇はこれまでも何度も経験してきた」「病気を抱えかつ就労は不安定雇用。所持金もほとんどない」など深刻な状況が訴えられました。代々木病院からは井上院長、代田医師、赤羽看護師（写真）が訪れたれた方の健康相談



にのりました。今、健康がすぐれないというホームレスの方は、要員の横田事務次長が付き添い、代々木病院で救急受診しました（入院に至らず）。うつ病がある37歳の男性の方は、駅前案内を配布していた要員に連れられて健康相談コーナーを訪れました。「病気を抱えて、日雇いで働いていたが、現在次の仕事を探している最中。所持金もほとんどない」という方でした。生活相談の担当者も交えて対応し、生活保護を申請する事にしました。社会がとって厳しくなっていることを実感した（入江医師の感想）取り組みでした。民医連や労働組合の出番です。

2/27の電話相談会は安井MSWと
高橋看護師が電話相談を担当しました